

テーマ 多様性、多様な見方について

趣旨 教育において、画一的な見方ではなく、多様な見方が重要なことを、そのいくつかの具体例をあげて説明する。

- 1 すぐれたもの(文章、作品等)には次の3要素があると思う。
  - ① 全体として優れていて、多くの人の心を掴む(普遍性をもち且つ時代の空気も反映している。)
  - ② 主張は骨太で、はっきりしていて明確で、理解しやすい。
  - ③ 同時に、それは主張の押しつけではなく、多様な解釈、批判も許容するスケールの大きいものである。
- 2 宮崎駿の映画が、人気があるのは、上の3つの条件を満たしているからである。宮崎駿論が多く出されているのも、多様な解釈が可能だからである。村上春樹の作品(小説、随筆)の魅力も同様の特質から来ている。井上陽水の歌「傘がない」が一世を風靡したのも、大学紛争後の時代精神を的確に掴み、多様な解釈を許容したからである。
- 3 フィスクの説明によると、マドンナの「ライク・ア・バージン」の歌詞には、4つの語呂合わせ(宗教的愛、セクシュアリティ、ロマンティック・ラブ、都会で生存競争)があり、読者そのの意味の読み取りができるようなものになっている。マドンナの音楽は、その時代の空気を反映しているだけでなく、多様な解釈を許容するスケールの大きなものである。
- 4 多文化教育で、大事なことは、多様な見方を理解し、許容することである。その際に、バンクスの「転換アプローチ」は有効な方法である。他国や他者の立場から、同じ事象を見つめてみる。第2次世界大戦や広島・長崎への原爆投下を、日本人の立場からだけ見るのではなく、「アメリカ人、日系アメリカ人、中国人、韓国人(朝鮮)の立場から考える。」(「転換アプローチ」による「原爆教育」は、日米で行われている(NHK番組参照)。西部劇も昔は白人視点からのみ作られていたが、今はそのような映画は見られない。)
- 5 藤原新也の「世にも不思議なマクドナルド」も、「人種差別はよくない」という一般的な視点や差別される日本人の立場からだけでなく、何故アメリカ人がアジア人を差別するのかということ、アメリカの歴史から理解し、その上で、人種差別の問題を多様に深く考える必要があるであらう。
- 6 国語の授業で、一つの文章(物語)を、どのように解釈していくかは、文部科学省の教科調査官や教科書(編者)の見方の押し付けであってはならない。

多様な見方から読むことの重要性について、正確で、理解しやすい解釈が、教える側から提示されるのは構わないが、それはあくまで一つの解釈で、作者の経歴や文全体の内容や個々の記述から、別の解釈がありうることを、子ども達に考えさせることも必要であろう。

以下、有名な教材「冬景色」への芦田恵之助の解釈と、「海の命」への上からの解釈の例で、それを示そう

- 7 藤原新也の小学校での出前授業(NHK テレビの番組「課外授業一ようこそ先輩」)には、一つの写真をめぐり、いろいろな解釈ができることを、子ども達との対話の中で示している。藤原氏は、子ども達の写真に対する解釈も取り入れたら、別の見方も提示し、子ども達の意見変容(老いや死が、忌み嫌うべきものでないこと等)もはかっている。

### アメリカにおける多文化教育の歴史と現代的課題

グロリア L. ビリングス  
加藤幸次・武内 清 訳

今日は、アメリカにおける教育についての考え方の一つである多文化教育(Multicultural Education)についてお話しします。多文化教育という考え方の出てきた歴史的経緯からお話ししましょう。多文化教育という言葉が教育学の文献で使われるようになったのは1970年代です。しかし、それ以前にそのような考え方を土壌が生まれていました。

1940年代つまり第2次世界大戦が終わって、さまざまな人種や民族からなるアメリカ兵が本国に帰還して来ましたが、しかし彼らにはアメリカ人としての市民権が与えられていませんでした。そこでアメリカの恋愛探偵を指示するために彼らに市民権を与えるという気運が高まりました。時は冷戦時代で、共産主義が台頭した時代です。

1954年に、最高裁のブラウン裁判の判決がなされました。この判決の内容はそれまで長い間保たれてきた判決をくつがえすもので、「人種別の扱いは平等ではない(Separates is not equal)」というものでした。どの人種の子どものも近隣の学校に行く権利があるという判決が初めて下されたのです。

1960年代になると、公民権運動が起こりました。マーチン・ルーサー・キング、マルコムX等の名前が思い浮かぶことでしょう。同時にベトナム反戦運動や女性解放運動が起こりました。そして大学のキャンパスでは、黒人研究、アジア研究、アメリカンインディアン研究、女性学(Women's studies)といった新しい科目が開講されるようになりました。そして1970年代にそれらに共通する多文化教育の概念が生まれました。

多文化教育は1945から50年代に盛んになった「人種間教育運動(Intergroup Educational Movement)」とは異なるものです。「人種間教育運動」は白人以外の人種がいかに白人のようになるかや白人社会に適応する方法が模索されました。それに対して、多文化教育はすべてに人が対等にカリキュラムの構成に参加し国の発展に貢献できるように企画されたのです。当時、多文化教育の研究に携わった重要な人物はJ.バンクス、C. グラント、G. グレイ、C. コルテス、A. ベーカーです。

ここではJ.バンクスの考えを使って説明しましょう。J.バンクスは多文化教育には5つの次元があるとしています。第1は内容統合の次元です。これは教師がカリキュラムの中で他の文化の例を取り上げ、その文化への理解を深める方法を問題にします。

その内容統合の次元には4つのアプローチがあります。第1はトピックアプローチ。これはいろいろな国の祝日やヒーローを取り上げるもので表面的なものです。たとえば日本の「子どもの日」について取り上げるようなことです。第2のレベルは付加的アプローチと呼ばれているものです。これは教師が通常のカリキュラムを変えずに、一つの単元として例えば日本について教える

ようなことです。第3はバンクスが転換アプローチと呼ぶものです。例をあげましょう。通常アメリカの高校でアメリカ史や第2次世界大戦について取りあげる時、軍事的政治的視点から戦闘や政治的戦略について教えます。それに対して転換アプローチでは、「第2次世界大戦を多様な視点から見てみよう。たとえば女性の視点から、黒人の視点から、日系アメリカ人の視点から、メキシコ人の視点から」と問題を提起します。アメリカではこの方法で教えることの出来る教師はごく少数です。第4はバンクスが社会行動的アプローチと呼ぶものです。その例として、1989年にフレッド黒松が第2次世界大戦中の日系アメリカ人の強制収容所への拘束に対して政府に謝罪を求めて訴訟を起こしました。学生達が当時の歴史を研究し、責任の所在を明かにし訴訟を支援した運動があげられます。これらはまだ理想です。なぜなら今でも大学においても第1のアプローチの水準で教っています。スタンフォード大学でも同じレベルで大きな戦いがあります。

#### ビデオ『原爆をどう教えるか ~日米の教室から~』

1. 導入
    - ①イントロ(日米の教室、反核デモ、スミソニアン博物館)
    - ②アメリカ人の意見、日本人の意見(NHKの調査「原爆投下の是非」)
  2. 日米の教科書
    - ①アメリカ
      - ・投下は正当(100万人の犠牲者)
      - ・教科書の内容の変化
    - ②日本
      - ・前後のいきさつは習っていない
      - ・被害者意識が中心
  3. アメリカの新しい動き
    - ①社会科教育会議(ボストン)
    - ②サマミッシュ高校(シアトル)
      - (高校2年生「アメリカ史」)
      - ・投下直後の記録映画
      - ・ディベート(投下:賛成、反対)
      - ・マクナス先生
      - ・さまざまな結論に達している
  4. 日本の新しい動き
    - ①石神井東中学
      - ・広島修学旅行(事前授業・研究)
      - ・ビデオ(アメリカ人の意見)
      - ・生徒の意見の変化
    - ②広島への修学旅行
      - ・語り部の話、平和記念資料館
      - ・生徒達の感想
      - ・生徒達の話し合い
- ※原子爆弾投下の意味(?)
- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 【アメリカ】           | 【日本】            |
| 本土決戦の犠牲(100万人以上) | 戦後世界でソ連に優位に立ちたい |
| →                | 原子爆弾の実験         |
|                  | アジアの困りから        |
- 「自分と異なる見解から考えてみる」

「マドンナの歌詞のなかには多くの語呂合わせがなされているが、これも同じようにテクニクに対する創造的で能動的な関係を深める必要があるものである。語呂合わせは一つのことを交互に述べた複数の音程が交差するときに生まれるもので、直接的な文脈によつて特定の意味が優先権をもつことになることはいいえ、他の意味の可能性が消えるわけではない。語呂合わせによつて、どの音程も決定的な意味をもつことができないのだ。いいかえれば、語呂合わせは複数の音程を衝突状態のままに置き、まず読者にその語呂合わせに気づいてもらい、次に「し」した音程の出会いから読者なりの意味を眺みとるよう要請しているのである。語呂合わせに含まれる意味には矛盾するものもあれば整合的なものもあるが、それをどう読むかはすべて読者の自由にかまかされている。」「ライク・ア・バージン」の歌詞の出しだしはこんな具合である。

「教えたこの世界(wilderness)を生きてみた(Lived it) とうとうにこのまっぴら来た(make it) いかに道を見失って(lost) いたか あなたの出会いまで気づかなかった 打ちのめされて なにもかもいかにげんだった 運悪くたの(It's been hard) 學んで、書きこんでいた あなたがわたしを 離かてくれた

「この歌詞に繰り返されている語呂合わせには、すなわちとも四つの音程が交差している。その四つとは、宗教とくに宗教的愛、セクシュアリティ、白人の性的な愛欲、ロマンティック・ラブ、街で得た知恵すなわち都会での生存競争である。

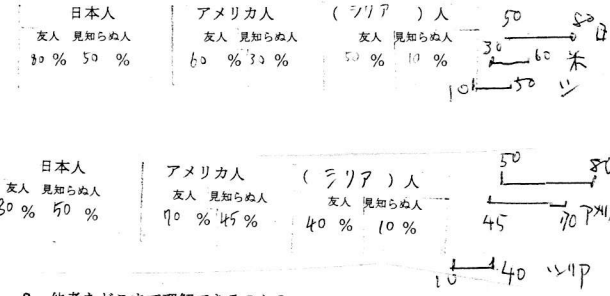
「はじめて見られた(Lived it) 運悪くたの(lost) 打ちのめされて 運悪くたの(It's been hard) 學んで、書きこんでいた

「あなたの愛をぜんぶあげる 不安がとんとん消えていく すべてあなたのために守ってきた 愛だけが永遠だから

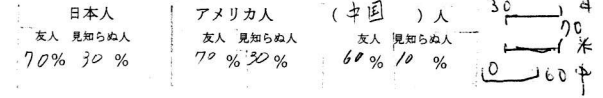
(作成: 藤原孝久氏)

テーマ 千葉市の教育、他者理解、人種差別、国際理解、多文化教育

3 他者をどこまで理解できるのか?



3 他者をどこまで理解できるのか?



4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

様々な価値観や民族が入り混じっている多民族国家のアメリカの街では、実際には受け入れられにくい人種差別がある。アジア系やヒスパニック系の黄種人種の人種差別を感じる場面が多いという現状を理解するより先に、日本では受け入れにくい現状がある。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

異なる文化を全て受け入れることが難しい。しかし、その文化が差別の対象とならないように、世界を現状を知り、課題に向き合い、解決策を探ることが大切である。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するためのコミュニケーション能力を高めることも必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

日本には人種差別が存在することを認めた上で、差別をなくすための取り組みが必要である。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

アメリカは多文化社会であるが、人種差別の問題は依然として存在している。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

日本にも人種差別は根づいており、これをなくすための取り組みが必要である。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

肌の色が違うだけ、出身がある程度は違っているだけで、いやがらせなどの差別がなくなってしまえばいいのではないかと思う。なぜかなくなってしまっているのか、同じ人間じゃないかと思う。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

肌の色が違うから差別が起きているのは、相手を理解できていないから。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

肌の色が違うから差別が起きているのは、相手を理解できていないから。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

肌の色が違うから差別が起きているのは、相手を理解できていないから。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

肌の色が違うから差別が起きているのは、相手を理解できていないから。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

肌の色が違うから差別が起きているのは、相手を理解できていないから。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

肌の色が違うから差別が起きているのは、相手を理解できていないから。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。

5 国際理解教育の難しさ (他国を理解することと愛国心 (ナショナリズム) は両立するのかわ?)

国際理解教育の難しさは、自己文化の愛護と他文化の理解の両立にある。自己文化を誇り、愛国心をもち、国際理解を目指す必要がある。

6 多文化教育のポイントは何か。どのような教育が必要か?

多文化教育のポイントとして、自己文化の理解と他文化の理解を同時に進め、相互理解を促すことが大切である。また、異文化を理解するための教育が必要である。

4 人種差別について (藤原新也「世にも不思議なマクドナルド」の感想)

肌の色が違うから差別が起きているのは、相手を理解できていないから。自己文化を尊重し、他文化を理解するための教育が必要である。